

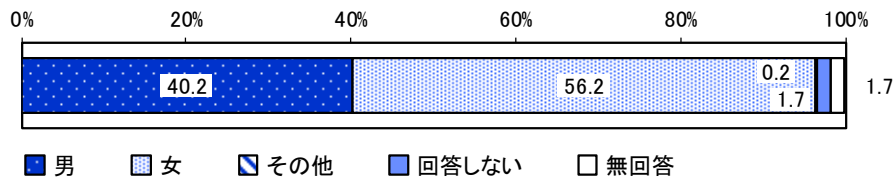
令和4年度
市民意識調査
【概要版】

令和5年3月

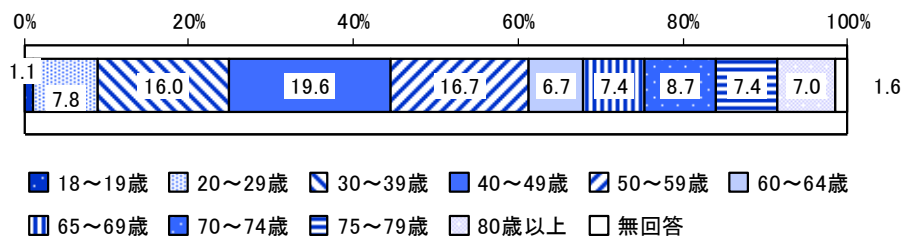
■調査対象者の属性

○令和4年7月から8月に、住民基本台帳から無作為抽出された市内在住の満18歳以上の方3,000人に調査票を送付し、1,122人のみなさんに回答をいただきました。(回答率37.4%)

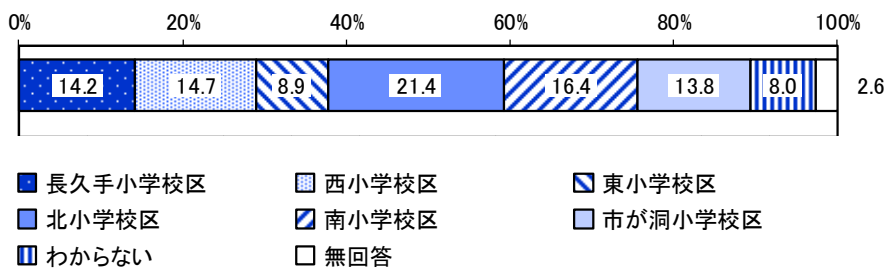
【性別】



【年齢】



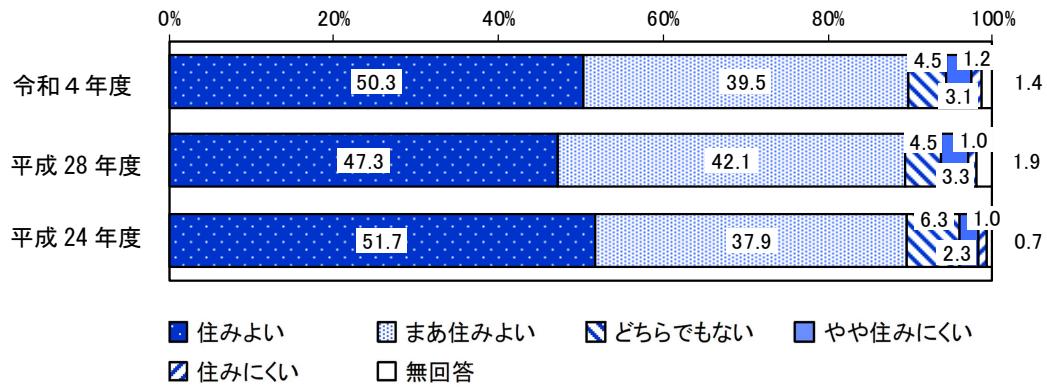
【居住学区】



資料：長久手市市民意識調査（以下同様）

■長久手市の住み心地

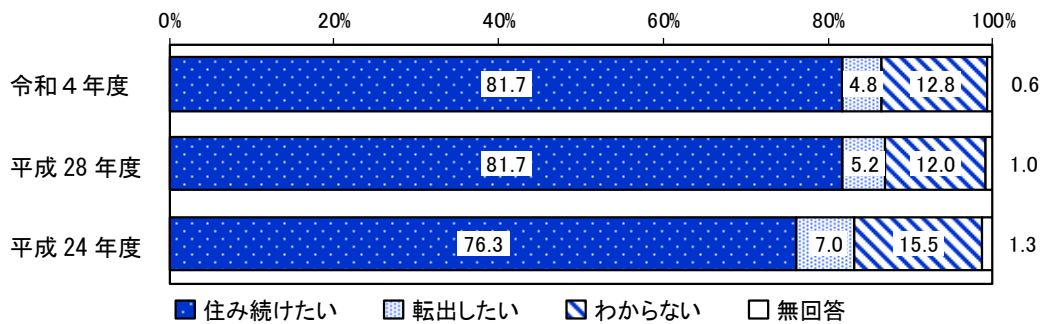
○「住みよい」と思う人が前回調査（平成28年度）から3.0ポイント増加しています。また、「住みよい」「まあ住みよい」と思う人の割合は約9割で、前回調査、前々回調査（平成24年度）とほぼ同様となっています。



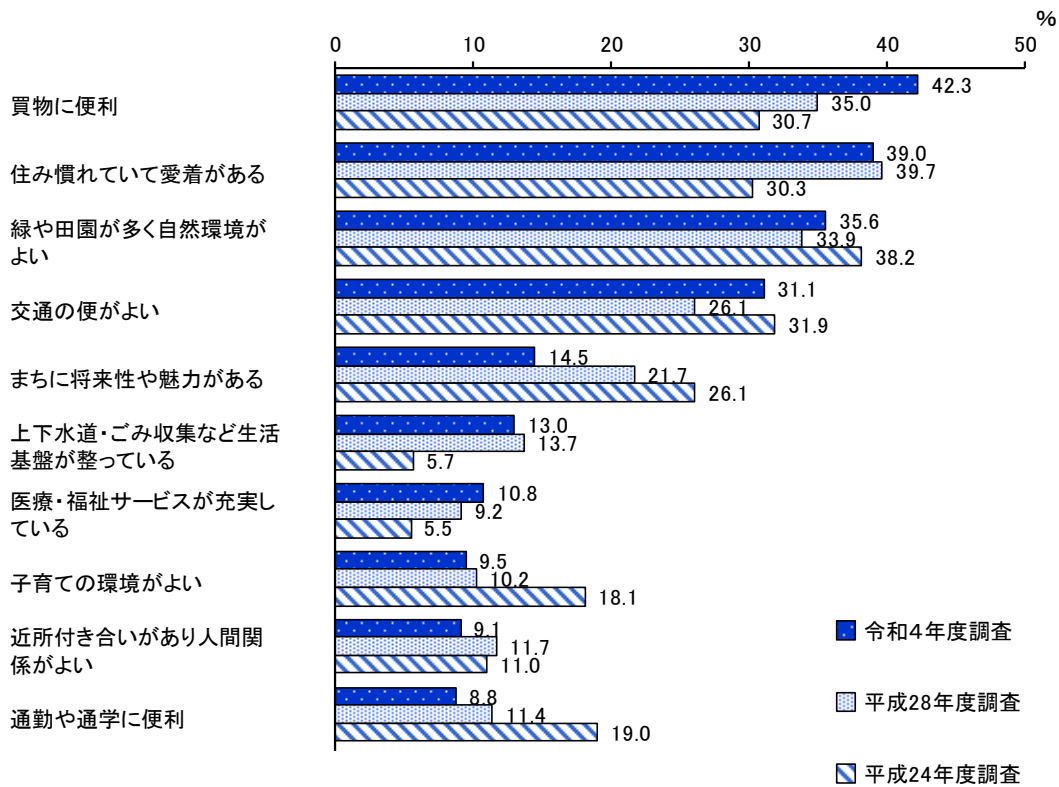
■定住意向

○「住みたい」と思う人は81.7%で、前回調査と同様でした。
 ○その理由として、「買い物に便利」「住み慣れていて愛着がある」「緑や田園が多く自然環境がよい」が上位となっています。

【定住意向】



【住みたいと思う理由】

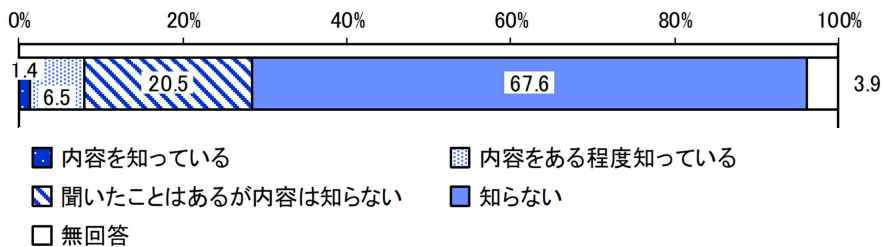


■長久手市のまちづくりについて

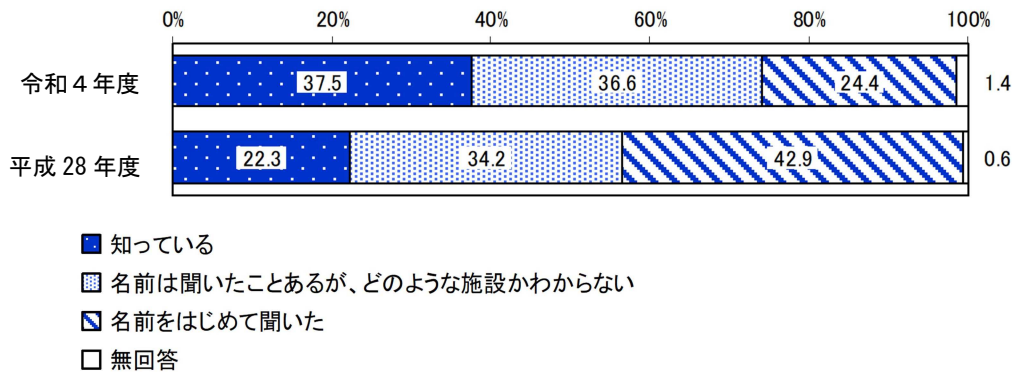
○「みんなでつくるまち条例」「地域共生ステーション」「まちづくり協議会」のそれぞれについて、認知度を調査しました。

○前回調査（平成28年度）と比べて、「知っている」と答えた人が、「地域共生ステーション」は15.2ポイント、「まちづくり協議会」は5.3ポイント増加しました。（※「みんなでつくるまち条例」は平成30年に制定されたため、前回調査では調査項目となっていませんでした。）

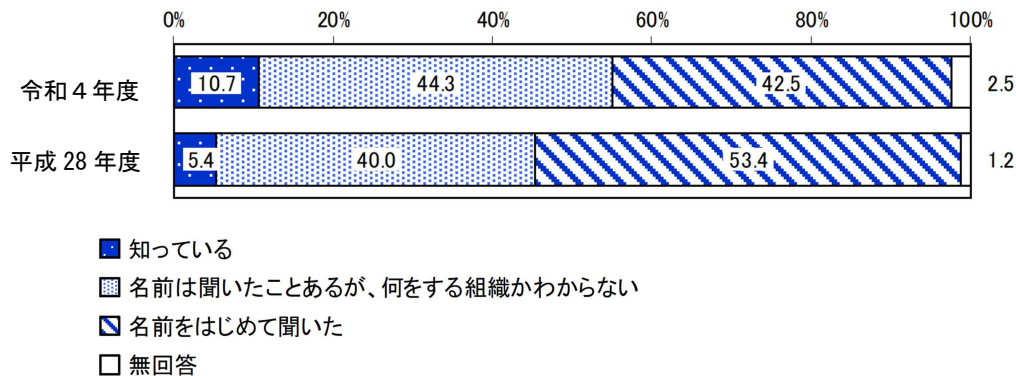
【「みんなでつくるまち条例」を知っていますか？】



【「地域共生ステーション」を知っていますか？】



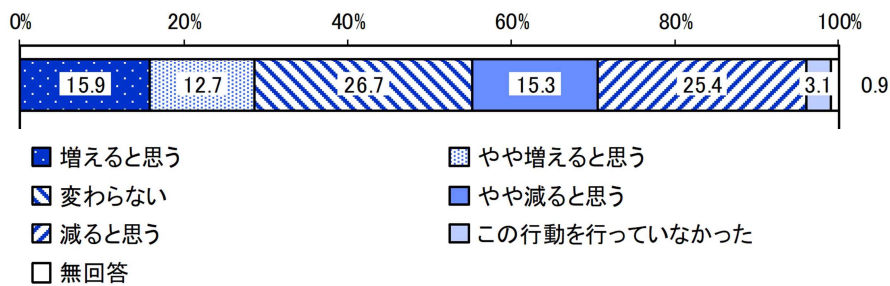
【「まちづくり協議会」を知っていますか？】



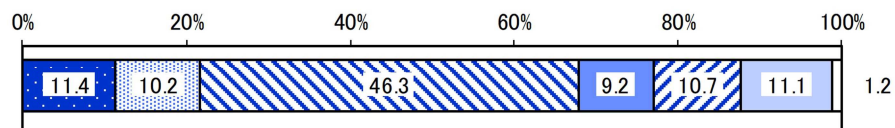
■新型コロナウイルス感染症の影響による意識変化

○新型コロナウイルス感染症による活動や外出に対する意識の変化については、「減ると思う」「やや減ると思う」と感じる割合が最も多かったのは、「友人や知人と交際・会食」で約4割でした。
○それ以外の項目では、「変わらない」と答える人が多い傾向となりました。

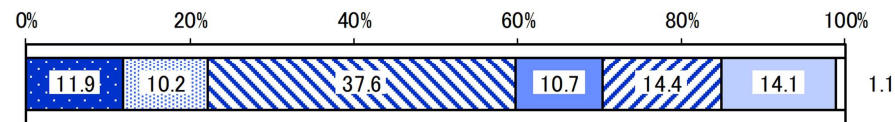
【友人や知人との交際・会食】



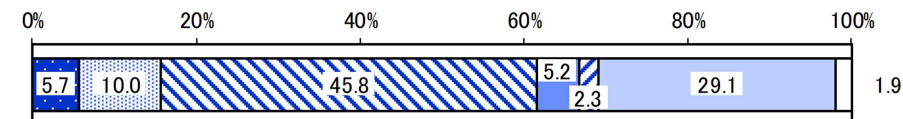
【公園での活動(遊びや散歩)】



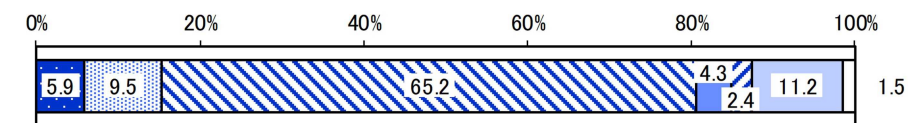
【公共施設(文化の家、福祉の家、地域共生ステーション、図書館等)の利用】



【ボランティア・社会参加】



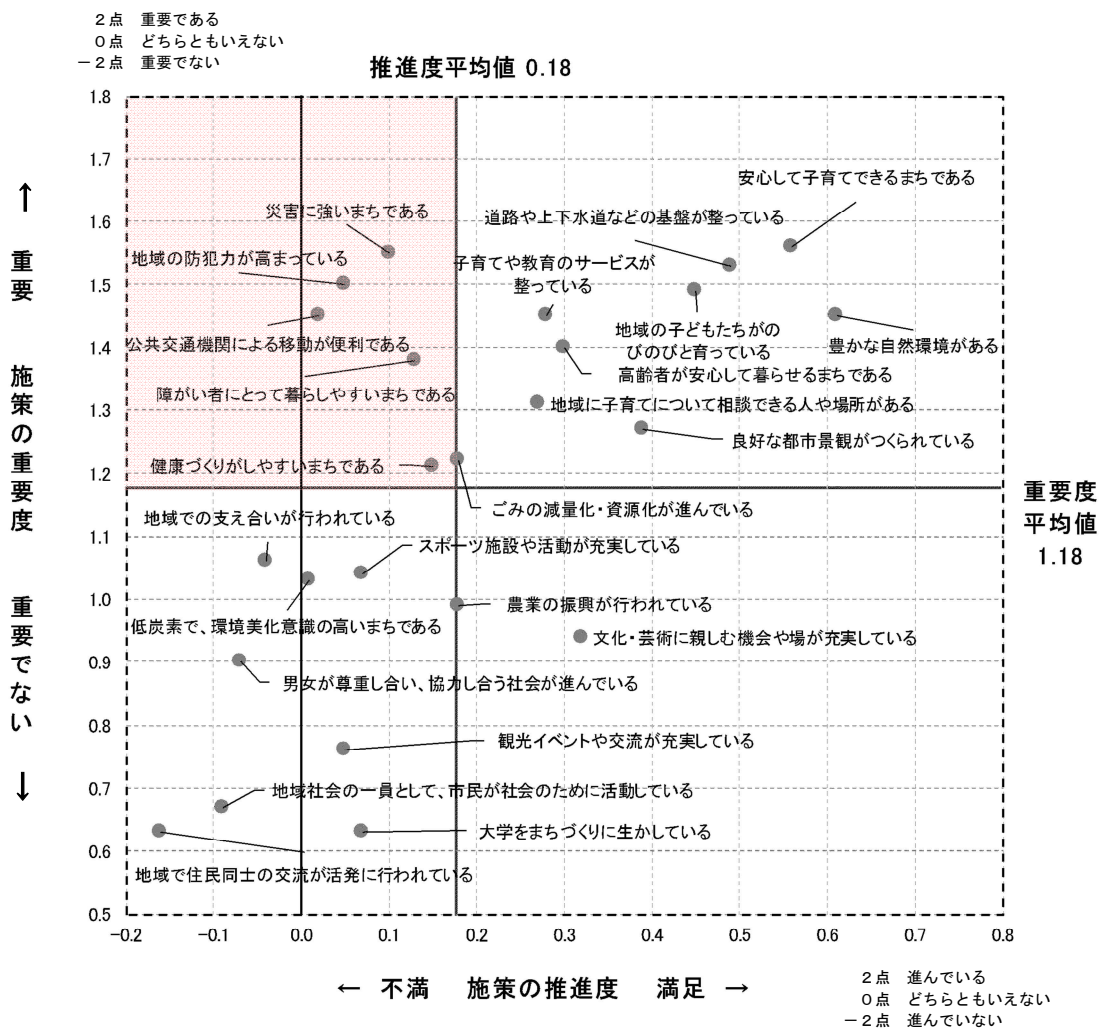
【近所づきあい】



第6次総合計画における基本施策の重要度及び推進度

○基本施策の推進度については、8割を超える施策が0点以上でプラス評価されています。

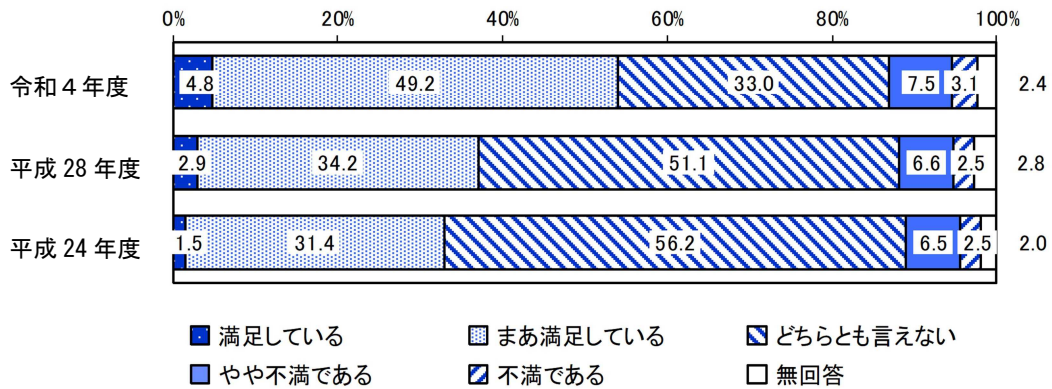
○施策の重要度が高いが、推進度が低い項目は、「地域の防災力が高まっている」「災害に強いまちである」「公共交通機関による移動が便利である」「障がい者にとって暮らしやすいまちである」「健康づくりがしやすいまちである」の5項目です。



■ 市政満足度

○「まあ満足している」が49.2%と最も多く、「満足している」4.8%と合わせると54.0%となります。

○前回調査と比較すると、「満足している」「まあ満足している」の合計54.0%は、前回調査（37.1%）から16.9ポイント増加しています。



■今後の重点施策

○今後、力を入れるべき施策としては、「高齢者福祉の充実」、「学校教育（施設を含む）の充実」、「乳幼児・児童福祉の充実」、「公共交通機関の整備」が上位に入っています。

○前回調査と比較すると、「ごみ処理対策」（8.6%）が前回調査より6.4ポイント多くなっています。一方、「防犯対策」（12.7%）は、前回調査より6.4ポイント少なくなっています。

